

「馬場小室山遺跡フォーラム」第61回ワークショップ

【実践!パブリック・アーケオロジ-2014】

馬場小室山遺跡を形成した「見沼文化」(人類活動と環境変遷)の追及、そして未来への展望

1.【活動】「見沼文化」2014 感謝祭(5/4(みどりの日)) : クリーンアップ大作戦

- (1)【拠点集落の最後の姿をクリーンアップ!】「土塚」と「第51号土壌」と中央窪地
 - ・「環堤土塚」の大土壌の位置はどこか? 中央窪地と「土塚」と大土壌がセットになる社会関係が重要。
- (2)【「見沼文化」の拠点集落を歩く!】馬場小室山遺跡の全体構成
 - ・史跡指定地以外の馬場小室山遺跡調査地点を歩いて確認。現代道路の下に住居址群が検出。
- (3)【「見沼文化」の1万年を体感する!】見沼をのぞんだ縄文むら
 - ・馬場小室山遺跡の南側に氷川女体神社から入る大きな谷(「松木の谷」)があり、ここが草創期後葉「井草式」～「夏島式」などの「撚糸文系土器群」の遺跡が密集する「見沼文化」形成期銀座!!

2.【活動】「山田湾まるごとスクール」:「防災・減災考古学」の構想から実践をめざして

・2011年10月11日の学術(海藻)標本レスキュー参加以来、山田町の復興に心を痛めています。行政マターで行うべき社会インフラの領域と、被災者に寄り添うパブリックの領域の二者があり、それらはある意味で排他的な結果を生みます。行政の「上から目線」と効率化、対する町民の「等身大目線」の対立がそれで、馬場小室山遺跡が壊されるときに対立構図が被災者に向けられているかのようです。パブリック・アーケオロジ-からこの問題に接近して3年、私たちの立ち位置と学問の未熟さが見えてきました。

(1)基本方針

- <パブリックの視点から> : 被災者重視の立場で復興の支援方法を検討します。それには仮設住宅から思考します。現在、コンセプト・デザイン策定を開始しました。
- <アーケオロジ-の可能性から> : 津波と遺跡の関係から、被災地の今後を考える「**防災・減災考古学**」の構想を明確にするとともに、早急に実践に導く体系化を図ります。

(2)「防災・減災考古学」研究事始め : 自然地理学のフットワークに学ぶ!

- ・岩手県下閉伊郡山田町船越半島の津浪調査を早くも2011年に実施し、町民に速報した小岩清水さんの学問的気概に学びます。齋藤瑞穂さんが小岩清水さんの業績をコピーして下さいましたので、前回から順次紹介しています。今回は2011調査速報2種を紹介します。
- ・因みに日本考古学協会会員が釜石市教育委員会の協力で津波調査を実施したのは2012年3月。

(3)「山田湾まるごとスクール」参加者募集

- ・「見沼文化」2014熱中祭として8/29(金)～8/31(日)に「山田湾まるごとスクール」をNPO 野外調査研究所・新潟大学災害・復興科学研究所との共催で実施します。

3.【ギャリートーク】「第25回企画展 さいたまの貝塚」: 於 さいたま市立博物館

- ・馬場小室山遺跡研究会では「青空考古学教室」で紹介しましたように、「見沼文化」1万年の変遷を追及しています。第60回ワークショップでは前期の大集落である大古里遺跡を散策しましたが、馬場小室山遺跡に集落が形成される以前の前期の拠点集落として注目しています。
- ・さいたま市の貝塚は前期に形成される例が多く、大古里遺跡に思いを馳せるためにも齋藤弘道さんのギャリートークをお楽しみください。

4.【連絡】その他活動連絡・予定

- (1)人間学研究所・教育の人間学部会例会報告 : 五十嵐聡江さんの実施報告(4/25刊行)紹介
- (2)日本考古学協会にて図書交換会デビュー : 卓番号「B100」(5/18(日)) 担当: 藤俊夫さん)
- (3)「見沼文化」2014収穫祭【第1部】 : 11/3(月・祝) 於: プラザイースト/多目的ルーム
【第2部】 : 11/24(月・祝) 於: プラザイースト/多目的ルーム
【第1部】: 縄文人は何を考え、どう生きたか? 【第2部】: 「山田湾まるごとスクール」の新展開

以上